

【都市と美術研究所】2022年12月6日（火）研究会 発表要旨

## あいちトリエンナーレ——都市型芸術祭の事例として

Aichi Triennale as an Art Festival in Cities

塩津青夏(国際芸術祭「あいち」組織委員会／プロジェクト・マネージャー)

SHIOTSU Seika

Curatorial Project Manager, Aichi Triennale Organizing Committee

あいちトリエンナーレ（以下「あいち」と略）は、2010年から3年ごとに開催されている国内最大規模の国際芸術祭である。2005年の愛知万博以後における県の文化政策でも中心的なものとして位置付けられた「あいち」は、現代美術のみならず、舞台公演やラーニングなど様々な表現を横断し、複合的に展開することなどを大きな特色としている。

国内で開催される芸術祭はしばしば「都市型」と「里山型」などと大別され、「あいち」は前者の代表的な芸術祭とみなされている。「都市型」の芸術祭は、変化する都市の状況に応じて会場が変わるほか、ディレクターも毎回交代するため、テーマも変わることなどが重要な特徴となっている。実際、展示される作品や愛知という地域の場所性よりも、芸術監督が打ち出すテーマやコンセプトに関心が寄せられることも少なくない。

「あいち」は、愛知芸術文化センター（1992年開館）をメイン会場の一つとしながらも、名古屋市だけでなく岡崎市や豊橋市、豊田市、一宮市、常滑市など愛知県内で広域に展開しながら、都市とアートとの関係性を深く探ってきた。たとえば名古屋市内では、長者町繊維街や四間道地区、円頓寺商店街、有松地区など、美術館のようなホワイトキューブではない「まちなか会場」でも展示を行い、地域固有の文脈に応答した作品が制作されてきた。

今回の発表では、これまでに制作、展示されてきた「あいち」の作品について、それぞれのアーティストや作品とこの都市の歴史や文化などとの関係性という側面から紹介する。そうすることで、グローバル化し均質的な空間としての都市で開かれる芸術祭という姿ではなく、豊かな歴史や文化、伝統などを背景にもつ都市で開かれる芸術祭としての姿が見えてくるだろう。

### 略歴

1985年鹿児島県生まれ。愛知県立芸術大学芸術学専攻卒業。名古屋大学大学院文学研究科修士課程修了。2010年より愛知県美術館学芸員。2017年より愛知県トリエンナーレ推進室主任。担当した主な展示に「ピカソ、天才の秘密」（2016年）、「あいちトリエンナーレ 2019：情の時代」（2019年）「国際芸術祭「あいち 2022」：STILL ALIVE」（2022年）など。